

『前へ』 作：大木実

少年の日読んだ『家なき子』の物語の結ひは、こいつの言葉で終わっている。

「——前へ。」

僕はこの言葉が好きだ。

物語は終わっても、僕らの人生は終わらない。

僕らの人生の不幸は終わらない。

希望を失わず、つねに前へ進んでいく物語のなかの少年ルミよ。

僕はあの健気なルミが好きだ。

辛(つら)いこと、厭(いや)なこと、哀(かな)しいことに、出会うたび、僕は弱い自分を励(はげ)ます。

「——前へ。」

興徳寺便り

前へ。

第128号 (復刊第53号) 令和2年お盆

大木実(大正2～平成8) 詩人。東京生まれ。8歳で生母と死別。10歳のとき関東大震災のため継母と弟妹を失った。電機学校中退。堀辰雄らの詩誌「四季」に寄稿、1942年同人となる。平成4年「柴の折戸」で現代詩人賞。(掲載の詩は 詩集「冬の支度」より)

「家なき子」という童話、フランスの田舎で幸福に暮らしていた少年ルミが実は捨て子であったことを告げられ、施設に入れ



前へ!

新型コロナウイルスによる影響は当初の予想をはるかに超えて全世界規模に発展し、今後どのように推移するかまったく予想もできない状況にあります。いま、経済活動は条件付きで再開されたものの依然として自粛

「夫れ仏法を学せん法は必ず先づ時をならうべし」 日蓮聖人のご遺文・撰時抄の一節です。撰時とは文字通り、時を選ぶこと。日蓮聖人在世の鎌倉時代は地震、飢饉、疫病等まさに末法の様相を呈していましたが、今こそが法華経を弘める時と確信をされお題目の弘通に生涯を捧げられたのです。

翻(か)って現在、コロナウイルスによって行動が制限され、何も出来ないことがよいことだとも考えがちな今、この時、今でしかできないことを見据え、一歩「前へ」踏み出してみましょう。

お盆のお経廻りの予定

7月28日 稲子～芝川・大久保
29日 精進川～下条の一部、
30日 下条、青木 31日 青木
8月1日(土)万野原新田・栗倉・大岩・村山・舟久保町・小泉の一部、希望者
2日(日) 富士市・希望者
3日 青木・馬見塚・外神
4日 淀師・穂波町・淀川町・貴船町
中島町・泉町・大中里・野中・星山
5日 北山・上井出・山宮・富士見ヶ丘・宮原 小泉・源道寺
6日 西町・宮町・大宮・宝町・豊町～
袖野 7日 ～袖野 8日(土)富士市、
由井、内房、大久保、その他希望者
9日(日)袖野、富士市、希望者

*当方の都合で日付変更もあります。
*泰然か泰潤のどちらかが伺います。特に希望がある方は申し出てください。
*変更を希望する方は ご連絡ください。

	行年	命日	
①	佐野吉則	71	令元7・13 青木
②	赤池基欣	81	令元8・22 宮原
③	望月富士子	84	令元8・25 静岡
④	芦澤洋子	82	令元8・27 大久保
⑤	佐野廣市	85	令元8・31 小泉
⑥	佐野良江	88	令元9・2 下袖野
⑦	工藤啓子	70	令元9・17 長貴
⑧	遠藤 肇	87	令元10・9 下袖野
⑨	堀水当美	57	令元10・23 ひばりが丘
⑩	池田 修	88	令元11・22 淀川町
⑪	堀水義之	61	令元11・24 富士市
⑫	木村誓暁	66	令元12・14 下条
⑬	佐野 守	83	令2・1・21 青木中河原
⑭	矢川哲史	45	令2・2・21 下袖野
⑮	佐野徳三	91	令2・3・2 青木
⑯	佐野幸子	89	令2・3・3 馬見塚
⑰	遠藤かず子	97	令2・3・13 貴船町
⑱	横沢吉雄	85	令2・3・16 栗倉
⑲	田口鉄子	102	令2・4・10 鳥並
⑳	望月久江	93	令2・4・16 万野原新田
㉑	遠藤節子	93	令2・4・16 下袖野

7月25日～27日に伺います。

住職のひとりごと

「花まつり」が終わりお盆までの期間は、例年ですと会合・総会、研究会や親睦会、講演等々が予定されているのですが今年はずべてがキャンセル。それでタケノコが終わってからは毎日、境内の草取り、草刈り、それに山の手入れで過ごしています。これがとつても楽しく今まで手もつめたことのない藪(ヤブ)がきれいになっていくのはとても嬉しいことでした。ちよつと高いけど背中背負う「草刈り機」を思い切って購入、斜面での作業も楽になりました。

●コロナウイルスの感染予防のため、お盆の棚経を中止するというお寺もあるようですが、私はマスクをつけて予定通り廻らせていただき、ご先祖様のご回向とご家族様のご多幸、身体健全を祈願させていただきます。ただし受け入れる判断は皆さまにお任せしますので、中に入つて欲しくないお宅はその旨お伝えいただくか、玄関に張つておいてください。玄関先でお経をあげさせていただきます。それぞれの気持ちがあることなので決して遠慮なさらぬよう。●例年子どもたちを集めて行つておりました「川施餓鬼」ですが今年も泰潤と「施餓鬼法要」を行います。「餓鬼」という世界で苦しむ霊にお経と食べ物・飲み物を施すことによつて功德を積ませていただき、参詣者すべてのご先祖様の供養をいたします。どうぞお申し込みください。また歩ける方はタイマツを持つて川まで一緒に行つて下さい。

●秋の団参(バス旅行)は十一月十二日から「泊三日で実施の予定です。お檀家さんには別紙で案内を入れておきました。是非お申込みください。●今回檀家さん以外も歓迎します。●今回のイラストは泰潤です。【泰然記】

傾向は続いています。多くの人が一同に会する機会も当面は見送られることと思います。この時期、行事・イベントの「中止」を決定することに誰も反対はしません。逆の場合には抵抗があります。ですが、これを当たり前としていいのか、やらないという楽を選ぶことにならないか? ここをよい機会ととらえ、考えてみませんか?



第13回 花まつり

4月5日、恒例の『花まつり』、規模を縮小し法要と法話のみとしました。参加者20名、マスクを着用し、距離を置いて座っていただきました。



初めての試みです。地獄の「血の海」の場面何やら恐ろしそうなフイキですが・・・



「誕生仏」に甘茶を注ぐ。この「甘茶」がとっても美味と好評です。

法要では、この病で亡くなられた多くの精霊へのご回向に併せ
一、世界中の新型コロナウイルスの早期終焉。
二、今、この病で苦しんでおられる患者さんの早期回復。
三、この病に関わる医療関係者ならびにそれを支える皆さまへの謝意と身体健康全。
を祈願させていただきました。

続く「法話」は紙芝居を大型スクリーンにて上映。
「花まつり日和」でした。
写真提供 高瀬幹雄



芥川龍之介の『蜘蛛の糸』。住職の語りに効果音(?)付きで・・・



夏～秋の予定

7月19日(日) **興徳寺をきれいにする日** 朝7:00～10:00頃まで
草刈・草むしり・本堂のお掃除など、できるご奉仕を。男女年齢問わず

7月26日(日) **写経と唱題行** 15:00～ 写経 16:00～唱題行
静かな環境に身を置いて、自分を見つめてみませんか？
写経は、椅子とテーブルで行います。正座が苦手な方も・・・

8月16日(日) **施餓鬼法要～川施餓鬼**
川で亡くなった方の霊に対する供養として行なわれてきた伝統行事です。毎年たくさんのお子様たちに参加してもらい盛大に開催してきましたが、「3密」を避けての実施が困難なことから、夏休みが1週間のみで16日が最終日などを考慮し、**大人を対象の「施餓鬼法要」を行います。**
「施餓鬼」とは「餓鬼」の世界で苦しんでいる霊に対し、お経とともに食物・飲物を供養し救いの手を差し伸べ、私達が功德を積ませていただく法要です。お参詣の方々のご先祖様のご回向も併せて行います。どうぞお申込みください。

《プログラム》

14:00 タイマツ製作

16:30 **施餓鬼法要**:本堂にて

18:00 点火～芝川にて焚き上げ

19:00 解散

8月23日(日) **写経と唱題行** 15:00～ 写経 16:00～唱題行

興徳寺の敷地は約7ヘクタール(7町歩)。ここに写っているのは三分の一くらいでしょうか。ご縁をいただいた方々の「心のふるさと」です。



上空90mより ↓

写真家・高瀬幹雄さんがドローンで撮影した興徳寺の全景です